街道を歩く

中山道：深萱一大湫宿一八瀬沢

寺坂より宿

大湫宿（大井宿から3里半）

御嵩一日吉一釜戸一大井であった経路が日吉丘陵を通るｺｰｽに変更になり慶長9年(1604)設けられた新宿である。

町並みは寺坂あたりから東西3町6間尾州藩領で千村家、山村家折半の地で定百姓は区別されていたが宿人馬役は区別なく勤めた 。　小宿ながら和宮の降嫁、それ以前から宮姫達の道中の宿泊所、継立てに対処してきた元禄14年、正徳5年と大火に遭う。

脇本陣

大湫村を開いた保々氏（市左衛門宗昌）は土岐氏の流れ天正年中に入村、関ヶ原の役、大阪の陣に参戦、同心知行300石を給される開宿と同時に庄屋、本陣、問屋の三役を世襲明治まで続く。元和年間に中西、南両家に別れる本陣2軒となったが享保11年(1726)1軒となる。（一軒は脇本陣となる）

琵琶峠

標高540m、600mの石畳昭和45年発見和宮歌碑

住み馴れし　都路出でて　けふいくひ
いそぐともつらき　東路へのたび

峠の頂上にはいくつかの文学碑もある。

三十三所観音石窟

天保11年(1840)建立、祀られている。33躰の観音石像は伝馬役と助郷村rの寄進建立に当たっては当時の大手定飛嶋屋・京屋・甲州屋のほか奥州、松本、伊奈、彦根飛脚宰領中も協力したという。

藤村の高札場

樫の木坂の石畳

炭焼立場跡

昔病み伏した巡礼が念仏によって湧いたこの水を飲んだとこところ治ったという。

元は宿の外に置かれ木曽川に流す木材、山の管理の大湫川並番所であった後に街道筋の白木番所となる。

宝永8年(1711)伊勢の豪商熊野屋の婦人が急病、この清水で助かる。地蔵さんの後ろから泉が湧く。

墓の前にある細長い石を備え付けの小石で叩くと澄みきった音がする。小石で頬を撫でると歯が治るとかかって茶屋を営んでいた縞縞家で祀られている。

神明社・大杉

樹齢1200年、周囲11m、高さ60m宿のｼﾝﾎﾞﾙ、根元に神明の清水が湧いている。

観音堂

現在の堂宇は弘化4年(1847)再建、三尾暁峯(恵那付知の画人)筆による60枚の絵天井宿自慢である。（市文化財）

大湫宿本陣跡

文久元年(1861)10月28日和宮が泊まった本陣跡（大湫小学校校庭）の碑。

遠ざかる都と知れば旅衣
一夜の宿も立ちうかりけり

思いきや雲井の袂ぬぎかえて
うき旅衣袖しぼるとは

宗昌寺（臨済宗妙心派）

大湫村を拓いた保々宗昌よって関ヶ原合戦の慶長5年(1600)開基される。控え本陣としても利用される境内には刻経塔、読誦塔、写経塔、宝篋印塔あどある。